

真善美と神聖数学

＜黄金比ふとまにアルゴリズム＞



2015.11.23 五穀豊穰に感謝 千々松 健

「善の研究」で著名な西田幾多郎の歌碑にて

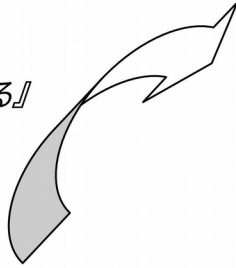


真善美と神聖数学

2015年9月 千々松 健

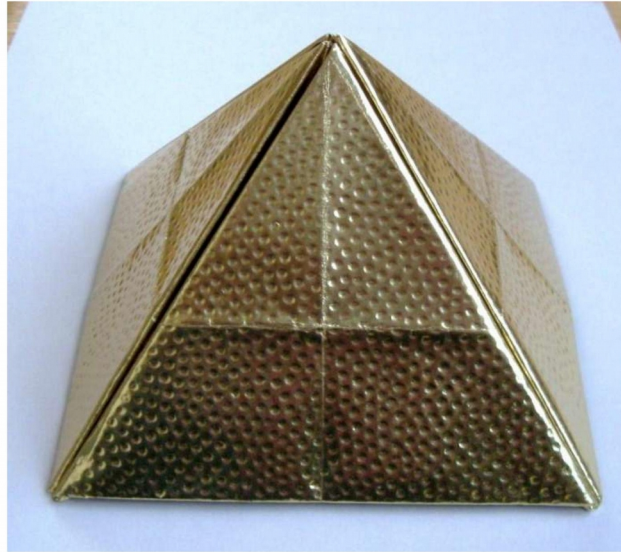
直観イメージ

『万物は1からできている』
『色即是空』

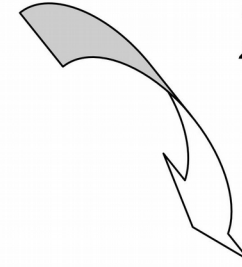


美:現象:3次元

真:本質:1次元



ロゴス(論理・真理)の動詞化=レゲイン
フィボナッチ数列
九九算表
ひふみ算とカバラ算
24で循環する四つの数の流れ



善:実体:2次元

黄金比:ピラミッド

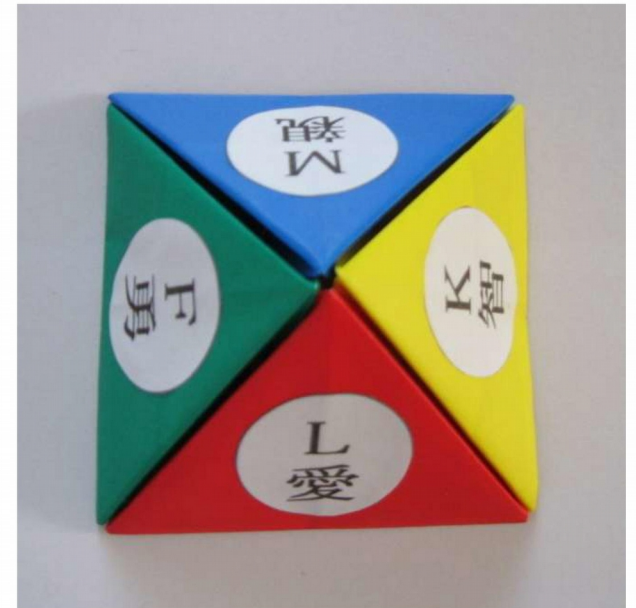
0.618:1:1.618

陰陽太極図

対称性・鏡面性・表裏性
磁気・螺旋・整数
二次平面のドーナッツ化

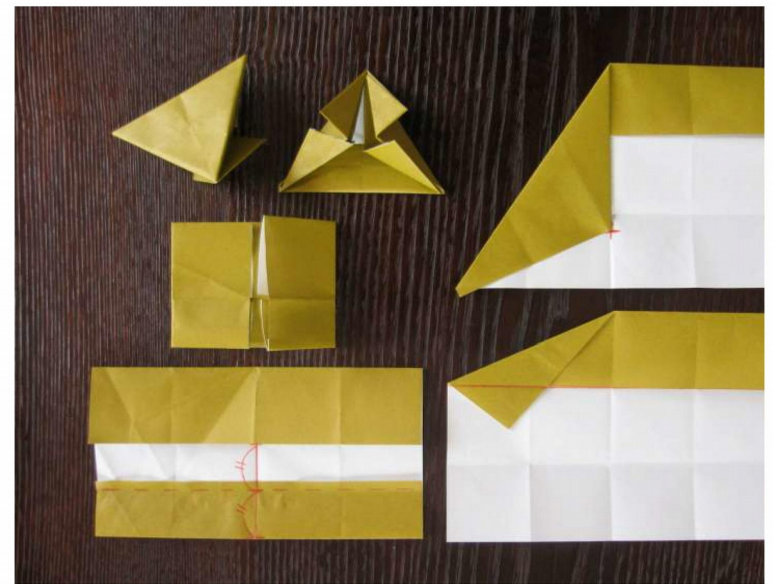
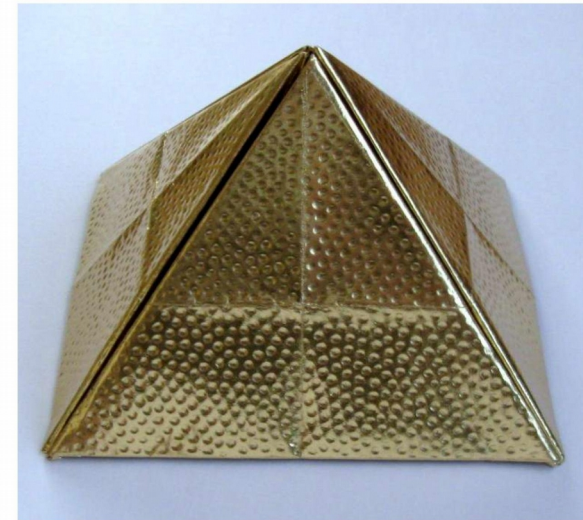
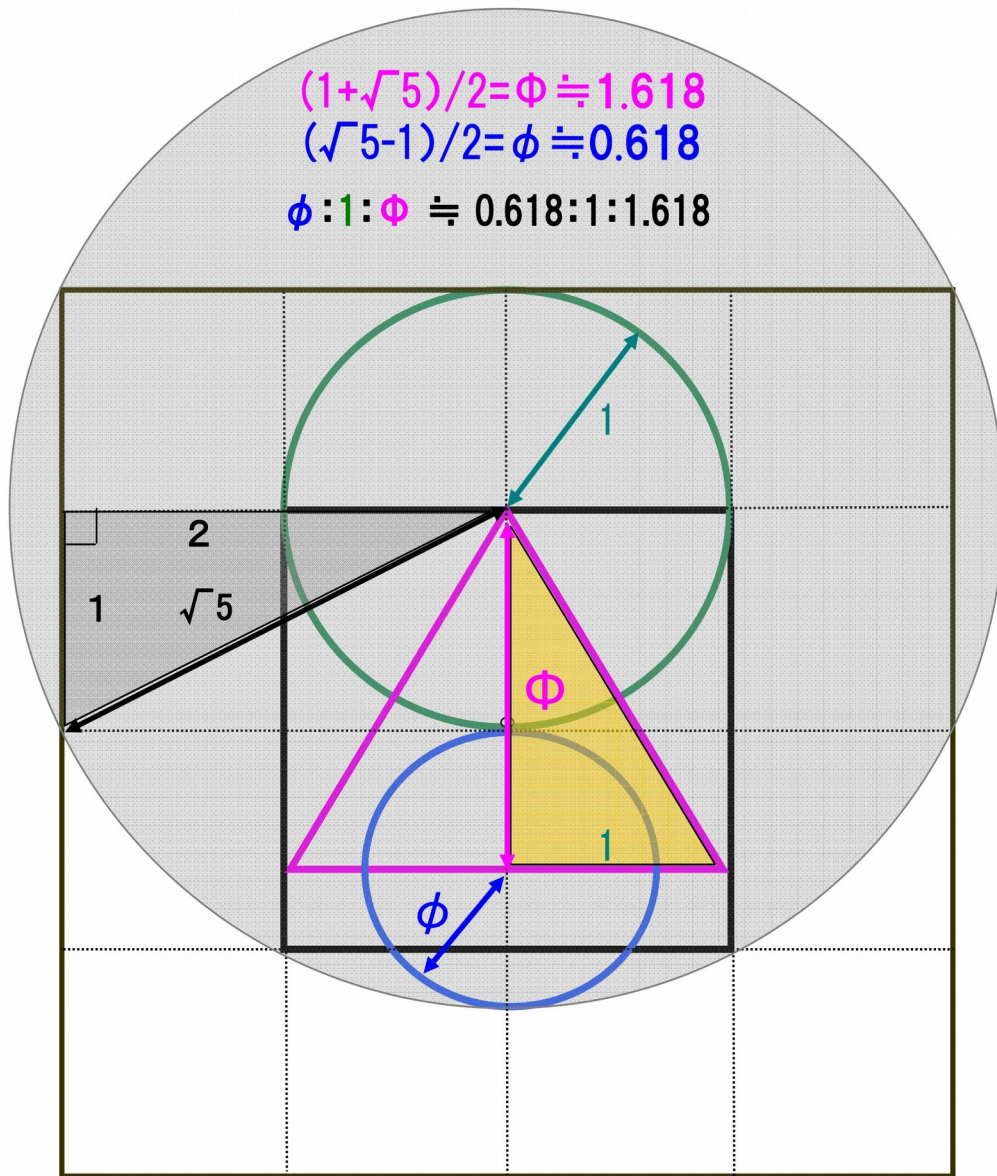


トーラス:メビウスの輪



$FMn \equiv FLKM \pmod{9}$

< DIVINE ORIGAMI PYRAMID >



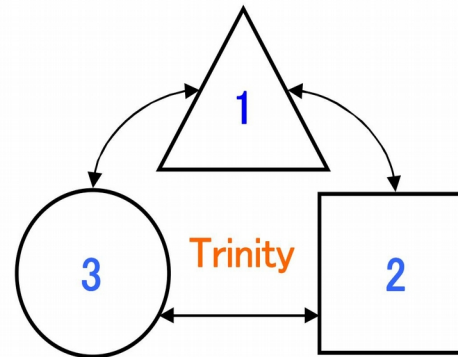
It was designed by Mr. Hideki Matsumoto and Ken Chijimatsu in Japan.

「真善美と神聖数学」

Sacred Mathematical Sciences

2015.10.10

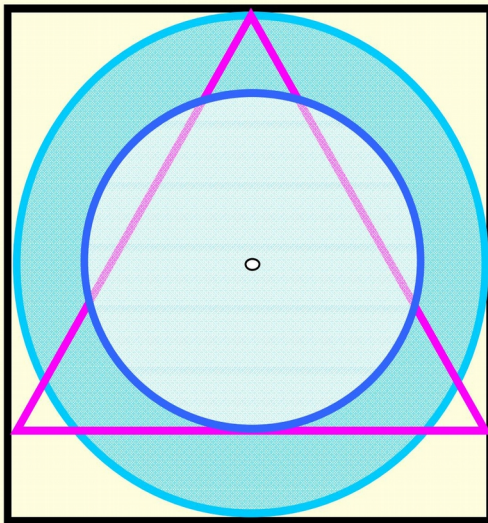
千々松 健



<領域>	△	□	○
プラトン	真	善	美
因果律	論理	原因	結果
武谷三段階論	本質	実体	現象
神聖数学	黄金比 Φ	フィボナッチ数列 ²	トーラス
図形イメージ	理論(ロゴス)	行為(レゲイン)	自然(万物)
人間力	思考力	行動力	表現力
行動様式	Plan	Action	Want
物質の三態	気体	液体	固体
ニュートリノ振動	e電子型	μ ミュー型	τ タウ型
カタカムナ	ナ	カム	カタ
三種の神器	剣	鏡	勾玉
三位一体	父	聖霊	子
演繹法	1>	2->	->3
帰納法	1<-	<-2	<3
直観	<1>	...	<3>

【 Three styles $\bigcirc \cdot \triangle \cdot \square$ are unified 】

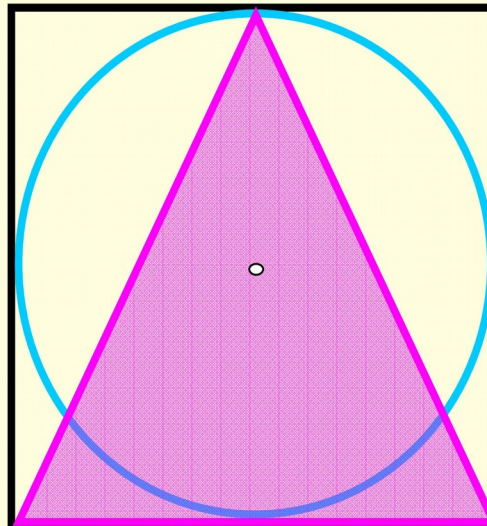
by Ken Chijimatsu



Pyramid basis

$\phi : 1 : \Phi$

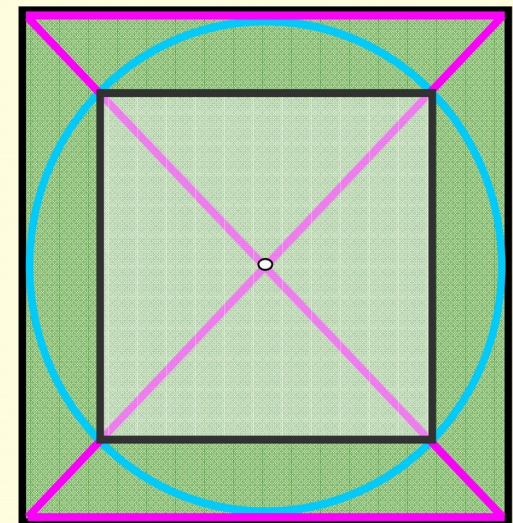
● : Nature



Pythagoras manner

$1 : 2 : 3$

▲ : Theory



Vitruvius typical

$1 : 2 : 4$

■ : Art

九九の掛け算表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81

- 1) 主対角線上は**2乗数**となっている
- 2) 主対角線で**鏡面对称**になっている
- 3) 9の段は対称性に富む
ex, 18:81、27:72、36:63、45:54

9で割った余りの数に置き換える

(mod 9)処理

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	0
2	2	4	6	8	1	3	5	7	0
3	3	6	0	3	6	0	3	6	0
4	4	8	3	7	2	6	1	5	0
5	5	1	6	2	7	3	8	4	0
6	6	3	0	6	3	0	6	3	0
7	7	5	3	1	8	6	4	2	0
8	8	7	6	5	4	3	2	1	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- 1) **全て**が0から8までの数で現わされる
- 2) 主/副対角線上で**鏡面对称**になっている
- 3) 法を9とするモジュラー算術が **(mod 9)**

フィボナッチ数列 Fn

- 【1,1,2,3,5,8,13,21,34,55,89,144,...】の数列
- 隣り合わせの数を足したものが次の数になる
- $1+1=2$, $1+2=3$, $2+3=5$, $3+5=8$, $5+8=13$
- $144/89 \approx 1.618$ 限りなく黄金比: Φ に近づく

- **インド**に発祥しアラビアからイタリアへ伝えられたもの、
本来は $0, 1, 1, 2, 3, 5, 8$, のようにゼロ: **0**からスタート
- では、、、
フィボナッチ数列を九九様にしたらどうなるか??
そして、ヒフミ算(mod 9)で処理したら?

【黄金比によるフトマニ数列群 (FLKM数列) の一般関係式】

2011.9-2015.9 千々松 健

ピネーの公式のとおり、 Φ のN乗と ϕ :(1/ Φ)のN乗との関係で、Nが奇数のときは減算、偶数のときは加算するとルカ数列が現れる。
ルカ数列とフィボナッチ数列の同項目同士の比は大項目になればなるほど、 $322/144 \doteq 2.236 \doteq \sqrt{5}$ に近似していく。

項目数	フィボナッチ数列	ルカ数列	ミチコ数列	ケン数列	フィボナッチ数列基準		
n	F	L	M	K	L/F	M/F	K/F
0	0	2	3	0	—	—	—
1	1	1	1	3	1.000	1.000	3.000
2	1	3	4	3	3.000	4.000	3.000
3	2	4	5	6	2.000	2.500	3.000
4	3	7	9	9	2.333	3.000	3.000
5	5	11	14	15	2.200	2.800	3.000
6	8	18	23	24	2.250	2.875	3.000
7	13	29	37	39	2.231	2.846	3.000
8	21	47	60	63	2.238	2.857	3.000
9	34	76	97	102	2.235	2.853	3.000
10	55	123	157	165	2.236	2.855	3.000
11	89	199	254	267	2.236	2.854	3.000
12	144	322	411	432	2.236	2.854	3.000
n ≥ 12で、ほぼ近似する					≐	≐	=
					$\sqrt{5}$	$\phi + \sqrt{5}$	3

$$\Phi = (\sqrt{5} + 1)/2 \doteq 1.618 \quad : \text{ラージ・ファイ} \quad (\Phi = 1/\phi)$$

$$\phi = (\sqrt{5} - 1)/2 \doteq 0.618 \quad : \text{スモール・ファイ} \quad (\phi = 1/\Phi)$$

$$\therefore \Phi \times \phi = 1, \quad \Phi + \phi = \sqrt{5}, \quad \Phi - \phi = 1, \quad \Phi + 1 = \Phi^2, \quad \sqrt{5} \doteq 2.236$$

ルカ数列の一般式(ピネーの公式)を活用すれば、FLKM数列のn番目を求める一般式はラージ・ファイ Φ とスモール・ファイ ϕ の黄金比を使用して示すことができる。

$$L_n = \Phi^n + (-\phi)^n$$

$$K_n = \{\Phi^n - (-\phi)^n\} / \sqrt{5}$$

$$F_n = \{\Phi^n - (-\phi)^n\} / \sqrt{5}$$

$$M_n \doteq \{\Phi^n + (-\phi)^n\} (\phi + \sqrt{5}) / \sqrt{5}$$

注) $(-\phi)^n$ の値は、n大なるときは極少となり無視できるので、 $L_n \doteq \Phi^n$ 、 $F_n \doteq \Phi^n / \sqrt{5}$

更に、 $L(n+1)/L_n \doteq \Phi / \sqrt{5}$ となる。 例: $144/199 \doteq 0.7236$ 、 $1.618/2.236 \doteq 0.7236$ で一致

1) フトマニ数列群 * の代表格の関係式

* 「二つを足して次の間に置く」というアルゴリズムで出来た数列群

F数列: フィボナッチ数列

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	1	1	2	3	5	8	13	21	34	55	89	144	...

L数列: ルカ数列

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	1	3	4	7	11	18	29	47	76	123	199	322	...

$$\frac{F(n+1)}{L_n} = \frac{89}{123} \doteq 0.7236$$

$$\frac{\Phi}{\sqrt{5}} \doteq \frac{1.618}{2.236} \doteq 0.7236$$

∴

$$\frac{F(n+1)}{L_n} \doteq \frac{\Phi}{\sqrt{5}}$$

2) 無理数である円周率と黄金比の関係式

古くから云われている等式

$$5\pi \doteq 6\Phi^2 \quad 15.70796 \doteq 15.70793$$

$$\frac{\pi}{6} \doteq \frac{\Phi^2}{5} \doteq \left[\frac{\Phi}{\sqrt{5}} \right]^2 \quad \text{1)の結果を代入して}$$

$$\frac{\pi}{6} \doteq \left[\frac{F(n+1)}{L_n} \right]^2$$

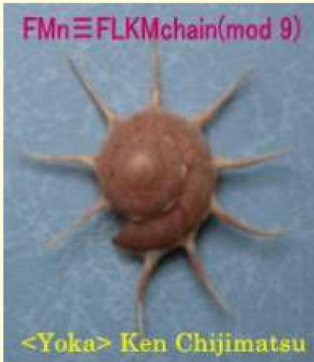
$$\frac{\pi}{6} \doteq \frac{3.141592}{6} \doteq 0.5236$$

$$\left[\frac{F(n+1)}{L_n} \right]^2 \doteq \left[\frac{144}{199} \right]^2 \doteq (0.7236)^2 \doteq 0.5236$$

N大なる世界では誤差1万分の1以下のレベルで、円周率も黄金比もフィボナッチ数列とルカ数列で表わせる。

>>> 自然も宇宙も、マイクロからマクロまで全てが、フトマニ数列の比で構成されたミロク(3・6・9)の世界と言える。

参照: FMn ≡ FLKMchain(mod 9) 「未来を変える方程式」 2015.7.25 by 千々松 健



未来を変える方程式

$$FMn \equiv FLKMchain(mod 9)$$

2013.7.28 千々松 健

神聖比例を生じるフトマニ数列群は、法を9とするモジュラー算術で数理処理すると全てが24項で循環する4つの数の流れ(FLKM系列)のいずれかと合同になる。

* フトマニ数列群:FMn

「二つを足して次の間に置く」というアルゴリズムは、日本古来の「フトマニ」の奥義で、フィボナッチ数列はその特殊例。神聖比例を生じる数列は無限に存在しますのでフトマニ数列群 (FMn)と名付けました。

* フィボナッチ数列:F_n

【1,1,2,3,5,8,13,21,34,55,89,144,233、、】

$$F_n = F_{(n-2)} + F_{(n-1)}, F_0 = 1, F_1 = 1, n \geq 2$$

ex. $233/144 \div 1.618 \div \Phi$ 神聖比例(黄金比)に限りなく近づく。本来は0からスタートする。

* 法を9とするモジュラー算術:(mod 9)

モジュラー算術とは、ある数を任意の数で割った余りの数に置き換えてしまう算法で、時には剰余算、時計算、合同計算と呼ばれています。任意数を9とするケースは古代のひふみ算やカバラ算にも見られ、全ての数を0~9の一桁で表わせます。≡は合同式記号です。

* 4つの数の流れ:FLKMchain

F系列(Fibonacci系列) 【0,1,1,2,3,5,8,4,3,7,1,8;0,8,8,7,6,4,1,5,6,2,8,1】

L系列(Lucas系列) 【0,2,2,4,6,1,7,8,6,5,2,7;0,7,7,5,3,8,2,1,3,4,7,2】

K系列(Ken系列) 【0,3,3,6,9,6,6,3,0,3,3,6;0,6,6,3,9,3,3,6,0,6,6,3】

M系列(Michiko系列) 【0,4,4,8,3,2,5,7,3,1,4,5;0,5,5,1,6,7,4,2,6,8,5,4】

【21世紀マンダラモデル】

<神聖方陣>

[Divine Matrix]

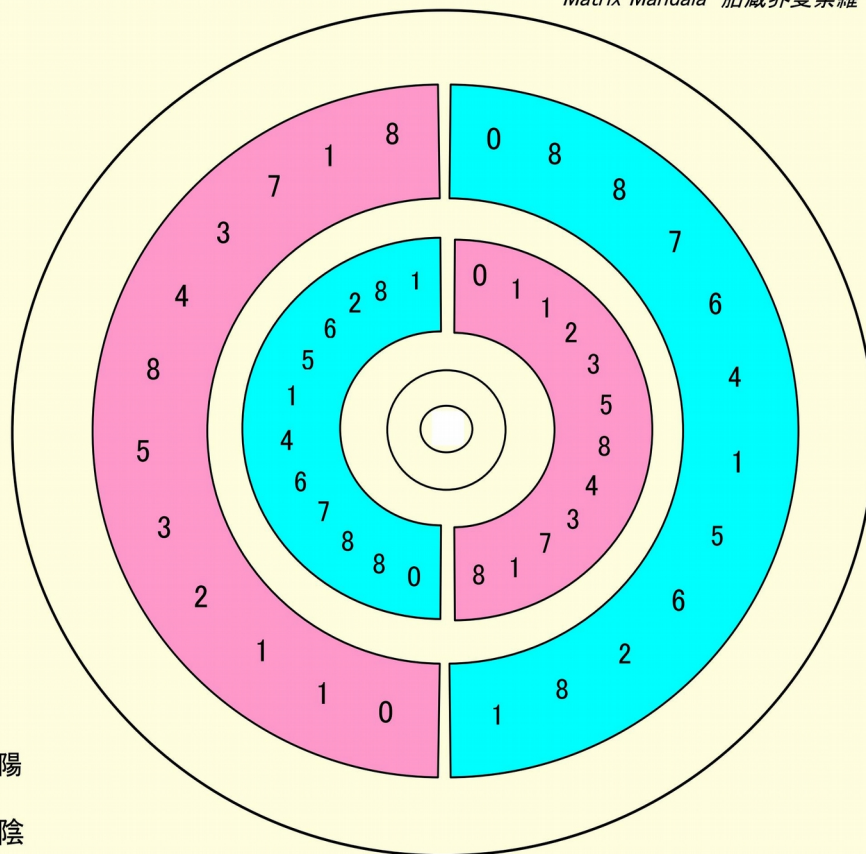
Diamond Mandala 金剛界曼荼羅

F数列	Fmod9	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0
0	0	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0
1	1	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	99
1	1	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	99
2	2	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0	99
3	3	3	3	6	0	6	6	3	9	3	3	6	0	6	6	3	9	3	3	6	0	6	6	3	0	99
5	5	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	99
8	8	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	99
13	4	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	99
21	3	3	3	6	9	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	9	6	6	3	0	99
34	7	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0	99
55	1	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	99
89	8	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	99
144	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
233	8	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	99
377	8	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	99
610	7	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0	99
987	6	6	6	3	9	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	9	3	3	6	0	99
1597	4	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	99
2584	1	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	99
4181	5	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	99
6765	6	6	6	3	0	3	3	6	9	6	6	3	0	3	3	6	9	6	6	3	0	3	3	6	0	99
10946	2	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0	99
17711	8	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	99
28657	1	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	99
46368	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<螺旋モデル>

[Helical Model]

Matrix Mandala 胎蔵界曼荼羅



陽
陰

* F数列 = フィボナッチ数列: 0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, 89, 144, 233, 377, ...

「二つを足して次の間に置く: フトマニ」というアルゴリズムで生じる数列の代表。大項目になるほど隣り合う比率は黄金比に近づく。黄金比 = $\Phi \approx 1.618$

* 一桁化: その数を9で割り、残った余りの数に置き換える操作。数論の「mod 9」に相当する。(法を9とするモジュラ算術、合同式、時計算)

例えば、233は233 ÷ 9 = 商25余り8、なので8に置き換える。位に関係なく2+3+3=8と足して計算可能。古神道のひふみ算、ユダヤ神秘主義のカバラ算と同様。

<神聖方陣>または「フィボナッチ数列ヒフミ九九算表」について

- 1) F数列 = フィボナッチ数列を一桁化すると24項毎の循環が現れる。これを「Fmod 9」数列とする。
- 2) Fmod 9数列を二乗し、九九算表のように縦横に掛け合わせた結果を更に一桁化すると方陣ができる。
- 3) 前半の12項と後半の12項に分けられ、二次平面においても陰と陽の関係が見出される。
- 4) 縦にも横にも4種類の数の流れが現れる。特徴が11-88、22-77、33-66、44-55の順にFLKM系列と命名。
- 5) この神聖方陣の上辺と下辺を結合し、更に左右を結合すればドーナツ状のトラス(円環体)が生じる。

<ラセンモデル>について

- 1) 点対称の位置にある二つの数字を加えると9となり、9=0でゼロに還元される。
- 2) 陽と陰は磁石の様に、次の層へは180度回転して収まり、メビウスの輪の如くなる。
- 3) モデルはF系列(11-88)を使用しているが、全てのFLKM系列においても同様である。
- 4) 半ドーナツ状の弦が4組みでワンセット48要素となる。

【FMn ≡ FLKMchain(mod 9)】

「神聖比例(黄金比 = Φ)を生じるフトマニ数列群FMn(フィボナッチ数列はその一例)は、法を9とするモジュラ算術(mod 9)で観察すると、全てが24項で循環する4つの数の流れ(FLKM系列)のいずれかに合同となる」<未来を変える合同式>

- Fibonacci 系列 : [0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 4, 3, 7, 1, 8; 0, 8, 8, 7, 6, 4, 1, 5, 6, 2, 8, 1]
- Lucas 系列 : [0, 2, 2, 4, 6, 1, 7, 8, 6, 5, 2, 7; 0, 7, 7, 5, 3, 8, 2, 1, 3, 4, 7, 2]
- Ken 系列 : [0, 3, 3, 6, 0, 6, 6, 3, 9, 3, 3, 6; 0, 6, 6, 3, 9, 3, 3, 6, 0, 6, 6, 3]
- Michiko 系列 : [0, 4, 4, 8, 3, 2, 5, 7, 3, 1, 4, 5; 0, 5, 5, 1, 6, 7, 4, 2, 6, 8, 5, 4]

☆21世紀マンダラモデルとFMn ≡ FLKMchain(mod 9) がメタサイエンスを拓く!

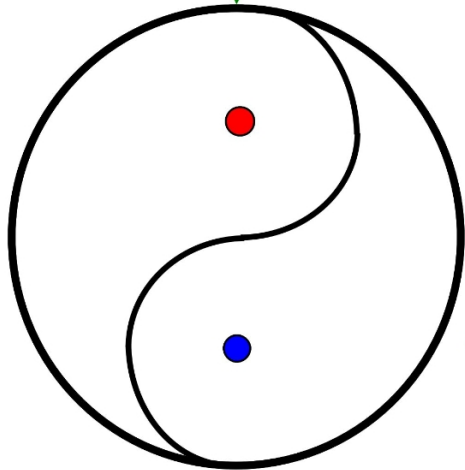
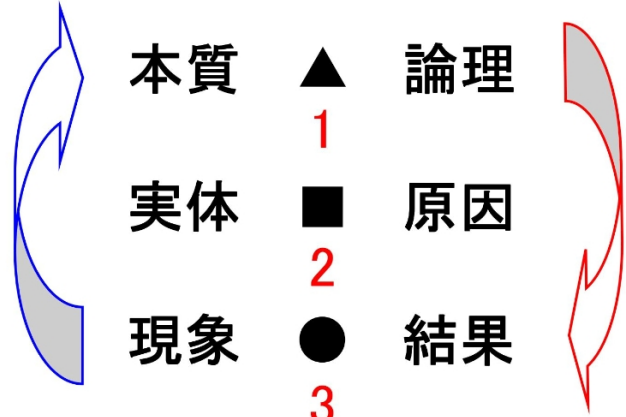
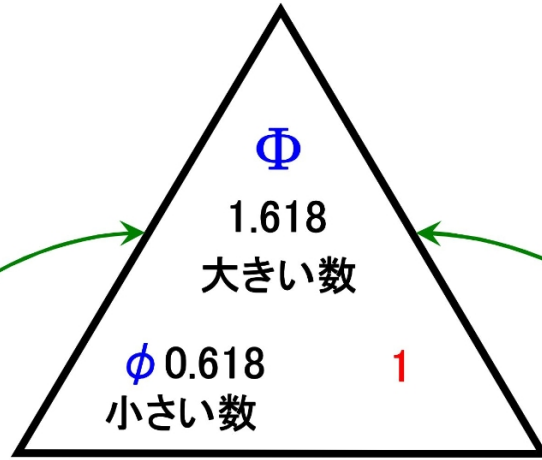
- 1) 生命科学領域ではDNAが「4つの塩基構造」を持つ理由になるかも知れない!
- 2) 超弦理論では弦が「4つの基本振動パターン」を持つ理由になるかも知れない!
- 3) 量子力学、素粒子論では「CP対称性の破れ」の理由になるかも知れない!



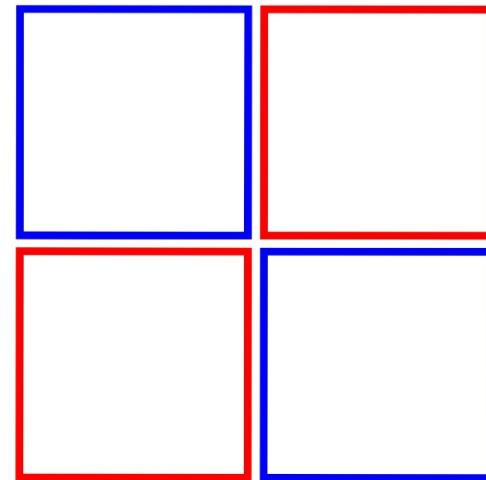
●▲■
The Universe

2014.7.7
千々松健の三段階論

黄金比
神聖比例



陰陽太極図
トーラス体 3D



(フィボナッチ数列)²
FMn ≡ FLKMchain(mod 9)

The Universe
超三段階論

2015.11.22

千々松 健
Ken Chijimatsu

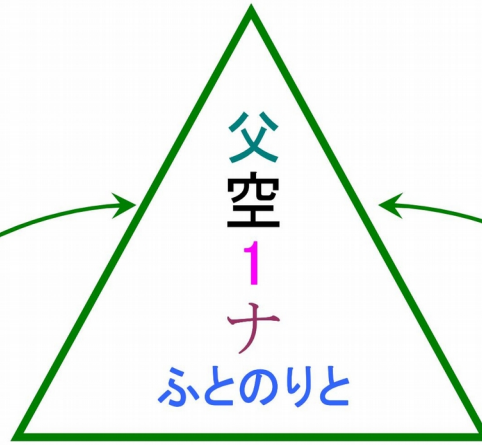
黄金比 $\phi : 1 : \Phi$
神聖比例

本質	▲	論理	実質
実体	■	原因	
現象	●	結果	
		1次元	Logos*
		2次元	
		3次元	
		【三位一体】	実在
		【カタカムナ】	
		【神文傳】	
			実現

『万物は1である
1から万物が生まれる』

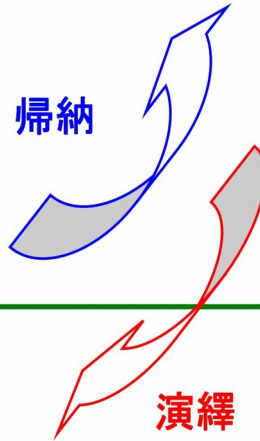
『色即是空
空即是色』

直観



陰陽太極図
トーラス体: 3D

帰納



『色不異空
空不異色』



フィボナッチ数列²
 $FM_n \equiv FLKMchain(mod 9)$

【三種の神器】

- ▲ 剣
 - 鏡
 - 勾玉
- (断面に注目)

* ギリシャ語の**ロゴス(論理)**の語源は「三つの数の関係ないしは比」を意味するというから、それは「 $\phi : 1 : \Phi$ 」Golden ratioに違いないと考えた。
レゲインはロゴスの動詞形で、本来は、自他を集約しながら下に、そして前に置くことを意味するとハイデッカーは推測し、「まずそれは『置くこと』であり現前するものを集約し、保存し、管理し、支配する」と説明していたが、要するにレゲインとはフィボナッチ数列のアルゴリズムと同様に考えて良く「二つを足して次の間に置く(フトマニ)」という意味に理解したい。 $0.618 + 1 = 1.618$, $1 + 1.618 = 2.168$ 「 $1 + \phi = \phi^2$ 」
 また【黄金比 ϕ は「1」のみで表される究極の自己相似系である】すなわち神聖比例は1の連分数、1の連平方根で表わせる。

黄金比Φは「1」のみの数式で表現される究極の自己相似系の無理数である

$$\text{A) } \phi = 1 + \frac{1}{1 + \frac{1}{1 + \frac{1}{1 + \frac{1}{\ddots}}}} = [1; 1, 1, 1, 1, 1, \dots]$$

1の連分数

$$\text{B) } \phi = \sqrt{1 + \sqrt{1 + \sqrt{1 + \sqrt{1 + \sqrt{\dots}}}}}$$

1の連平方根

A)は $\phi = 1 + 1/\phi$ と置きかかれて、 $\phi^2 = \phi + 1$ 、 $\phi^2 - \phi - 1 = 0$ 、

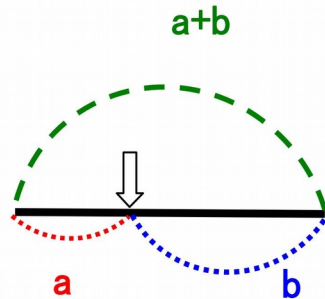
B)は $\phi^2 = 1 + \phi$ と置き換えられて、 $\phi^2 - \phi - 1 = 0$ 、

この二次方程式を解けば、共に $\phi = (1 + \sqrt{5})/2 \doteq 1.618$ が求められる。

黄金比 $\phi \doteq 1.6180339887$ 、、、 永遠に続く無理数！

神聖比例＝黄金分割

$\phi : 1 : \Phi$ 黄金比



1) ユークリッドの時代には「外中比」と呼ばれていた

$$a : b = b : (a + b)$$

\therefore (短:長=長:全体)

$$b^2 = a(a + b)$$

ここで、全体の長さ $a + b$ を 1 とした場合

$$b^2 = a$$

$a = 1 - b$ を代入して

$$b^2 = 1 - b$$

$$b^2 + b - 1 = 0$$

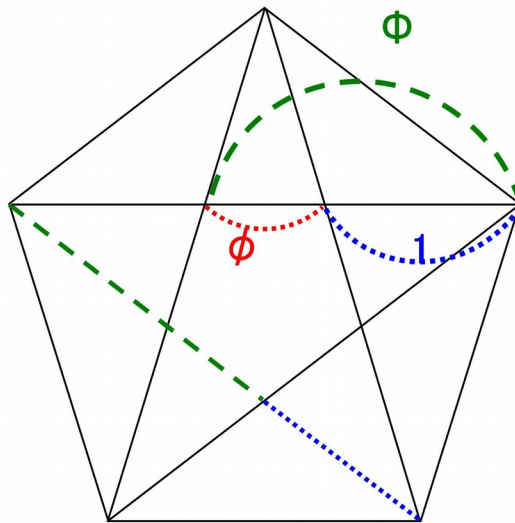
この2次方程式を解くと

$$(\sqrt{5} \pm 1) / 2$$

\therefore 1.618、0.618

$$a : b : (a + b) =$$

$$0.618 : 1 : 1.618$$



2) ピタゴラス学派は五芒星の中にそれを見ていた

$$\phi : 1 = 1 : \Phi$$

$$\Phi \doteq 1.618$$

ラージファイ

$$\phi \doteq 0.618$$

スモールファイ

性質 $\Phi * \phi = 1$

$$\Phi^2 - \phi = 2$$

$$\Phi - \phi = 1$$

$$\Phi = 1 / \phi$$

$$\Phi / \phi = \Phi^2$$

$$\Phi + \phi = \sqrt{5}$$

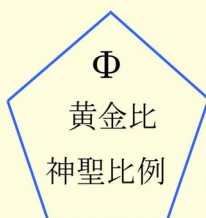
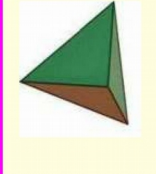
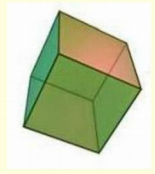
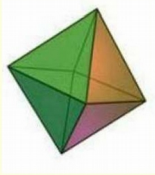
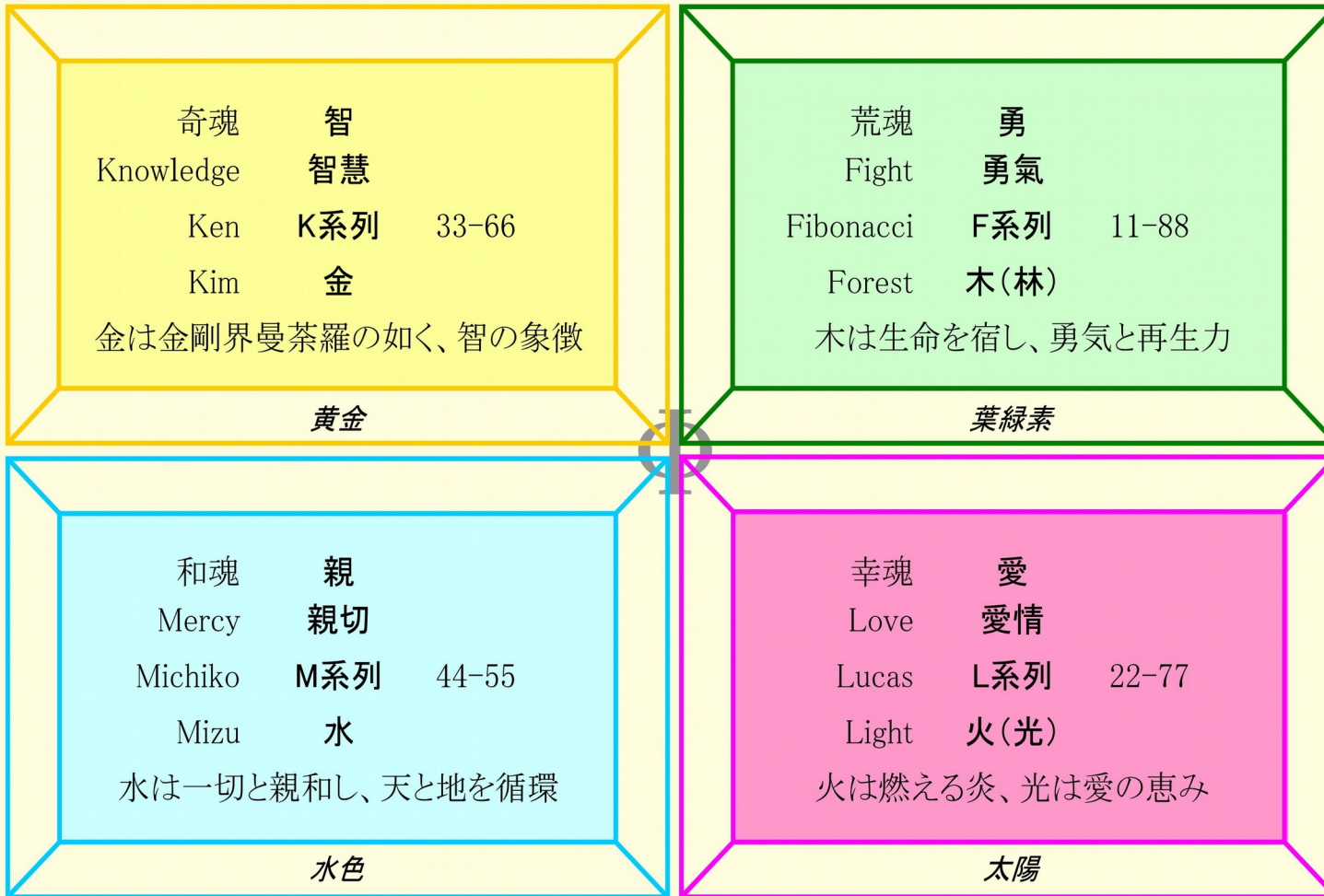
$$\phi = 1 / \Phi$$

$$\phi / \Phi = \phi^2$$

3) 正五角形の対角線上の接点は黄金分割されている。

プラトン立体の正12面体は正五角形×12面

四色窓



統合	四つの要素	内容	キーマン
一霊	四魂	親 ・ 智 ・ 愛 ・ 勇	出口 光
零:0	FLKM系列	Michiko・Ken・Lucas・Fibonacci	千々松健
土	四行説	水 ・ 金 ・ 火 ・ 木	安藤昌益
透明	光と顔料の三原色	青 ・ 黄 ・ 赤 ・ 緑	ビル・ゲイツ
正十二面体	プラトン立体	正六面体・正八面体・正四面体・正二十面体	ピタゴラス

No	フィボナッチ数列	ピタゴラス(の定理に合致する)数
1	1	$1^2 + 1^2 = 2$
2	1	$1^2 + 2^2 = 5$
3	2	$2^2 + 3^2 = 13$
4	3	$3^2 + 5^2 = 34$
5	5	$5^2 + 8^2 = 89$
6	8	$8^2 + 13^2 = 233$
7	13	$13^2 + 21^2 = 610$
8	21	$21^2 + 34^2 = 1597$
9	34	以下省略
10	55	$N^2 + (N+1)^2 = (\sqrt{2N+1})^2$ $= 2N+1$ <p>Nはn項目目のフィボナッチ数: Fn</p> $F_n = (F_{n-2}) + (F_{n-1})$ <p>n=1は1、n=2が1の場合</p>
11	89	
12	144	
13	233	
14	377	
15	610	

	ϕ	1	Φ	Φ^2	Φ^3
Φ^{-1}	ϕ^2	ϕ	1		
Φ^0	ϕ	1	Φ	Φ^2	
Φ^1	1	Φ	Φ^2	Φ^3	Φ^4
Φ^2		Φ^2	Φ^3	Φ^4	Φ^5
Φ^3			Φ^4	Φ^5	Φ^6

【神聖比例ふとまにアルゴリズム】

真善美と神聖数学へ向けて I

2015.10.20 千々松 健

黄金比(Φ)そのもので作るフトマニ数列を縦横に二次元展開し、面積で見ると、一マス毎にずれながら拡大して行く陰陽的バランス世界が出現する。

ロゴスの語源が三つの数の比【 $\phi : 1 : \Phi$ 】を意味するとすれば、その動詞形のレゲインは自己増殖する【万物創生のアルゴリズム】を意味しているに違いない。

横に3つ縦に3つ、合わせて6つを掛け合わせると9つのマスができ3・6・9 (ミロク)の世界となる。ここでは $\Phi^1 + \Phi^2 = \Phi^3$ 、 $\Phi^1 \times \Phi^2 = \Phi^3$ のように足し算、掛け算が同じ結果となる。

注) $\Phi^{-1} = \phi \doteq 0.618$ 、 $\Phi \doteq 1.618$
 フィボナッチ数列が $F_n = F_{(n-2)} + F_{(n-1)}$ で $n-2=0$ 、 $n-1=1$ の場合とすれば、 $n-2=\phi$ 、 $n-1=1$ の場合が【黄金比フトマニ数列】と言える。

【黄金比を使用したフィボナッチ数列とFLKM系列】 真善美と神聖数学学に向けて II

2015.10.25 千々松 健

- 1) $F(1, \Phi^n)$ 初項:1、第二項 Φ^n にして、広義のフィボナッチ数列(フトマニ数列群と呼んでいる)を実際に計算した
- 2) 神聖比例=黄金比= Φ の累乗の数列はルカ数列に近似し、その中にはフィボナッチ数列も観察される
- 3) マクロの概数値を(mod 9)で処理すれば、フィボナッチ系列、ルカ系列、ミチコ系列、ケン系列の四つの系列=FLKM系列のどれかになる
- 4) $FM_n \equiv FLKM_{chain}(\text{mod } 9)$ は整数のみでなく、無理数においても、更には質量のあるもの全てにおいて成立すると予想される

項数	$F(1, \Phi^0)$	数値	mod9	Φ の累乗	$F(1, \Phi^1)$	概数値	mod9	$F(1, \Phi^2)$	概数値	mod9	$F(1, \Phi^3)$	概数値	mod9	$F(1, \Phi^4)$	概数値	mod9
1	1	1	1	Φ^0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	Φ^0	1	1	Φ^1	1 Φ	1.618	1	1 $\Phi+1$	2.618	1	2 $\Phi+1$	4.236	1	3 $\Phi+2$	6.854	1
3	Φ^0+1	2	2	Φ^2	1 $\Phi+1$	2.618	2	1 $\Phi+2$	3.618	2	2 $\Phi+2$	5.236	2	3 $\Phi+3$	7.854	2
4	2 Φ^0+1	3	3	Φ^3	2 $\Phi+1$	4.236	3	2 $\Phi+3$	6.236	3	4 $\Phi+3$	9	0	6 $\Phi+5$	14.708	3
5	3 Φ^0+2	5	5	Φ^4	3 $\Phi+2$	6.854	5	3 $\Phi+5$	9.854	5	6 $\Phi+5$	15	6	9 $\Phi+8$	22.562	5
6	5 Φ^0+3	8	8	Φ^5	5 $\Phi+3$	11.09	8	5 $\Phi+8$	16	7	10 $\Phi+8$	24	6	15 $\Phi+13$	37	1
7	8 Φ^0+5	13	4	Φ^6	8 $\Phi+5$	18	0	8 $\Phi+13$	26	8	16 $\Phi+13$	39	3	24 $\Phi+21$	60	6
8	13 Φ^0+8	21	3	Φ^7	13 $\Phi+8$	29	2	13 $\Phi+21$	42	6	26 $\Phi+21$	63	0	39 $\Phi+34$	97	7
9	21 Φ^0+13	34	7	Φ^8	21 $\Phi+13$	47	2	21 $\Phi+34$	68	5	42 $\Phi+34$	102	3	63 $\Phi+55$	157	4
10	以下省略	55	1	Φ^9	34 $\Phi+21$	76	4	以下省略	110	2	以下省略	165	3	以下省略	254	2
11		89	8	Φ^{10}	以下省略	123	6		178	7		267	6		411	6
12	↑	144	0	Φ^{11}	↑	199	1	↑	288	0	↑	432	0	↑	665	8
13		233	8	Φ^{12}		322	7		466	7		699	6		1076	5
14	フィボナッチ数列が観察される	377	8	Φ^{13}	フィボナッチ数列が観察される	521	8	フィボナッチ数列が観察される	754	7	フィボナッチ数列が観察される	1131	6	フィボナッチ数列が観察される	1741	4
15		610	7	Φ^{14}		843	6		1220	5		1830	3		2817	0
16		987	6	Φ^{15}		1364	5		1974	3		2961	0		4558	4
17		1597	4	Φ^{16}		2207	2		3194	8		4791	3		7375	4
18	$\Phi^0=0\Phi+1$	2584	1	Φ^{17}	$\Phi^1=1\Phi+0$	3571	7	$\Phi^2=1\Phi+1$	5168	2	$\Phi^3=2\Phi+1$	7752	3	$\Phi^4=3\Phi+2$	11933	8
			F系列	$L_n = \Phi^n + (-\Phi)^{-n}$ ルカ数列に関するピネーの公式 概数値では Φ^n		L系列		L系列		K系列		M系列				

項数	$F(1, \Phi^5)$	概数値	mod9	$F(1, \Phi^6)$	概数値	mod9	$F(1, \Phi^7)$	概数値	mod9	$F(1, \Phi^8)$	概数値	mod9	$F(1, \Phi^9)$	概数値	mod9
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	5 $\Phi+3$			8 $\Phi+5$			13 $\Phi+8$			21 $\Phi+13$			34 $\Phi+21$	76	4
3	5 $\Phi+4$			8 $\Phi+6$			13 $\Phi+9$			21 $\Phi+14$			34 $\Phi+22$	77	5
4	10 $\Phi+7$			16 $\Phi+11$			26 $\Phi+17$			42 $\Phi+27$			68 $\Phi+43$	153	0
5	15 $\Phi+11$			24 $\Phi+17$			39 $\Phi+26$			63 $\Phi+41$			102 $\Phi+65$	230	5
6	25 $\Phi+18$	58	4	40 $\Phi+28$			65 $\Phi+43$			105 $\Phi+68$			170 $\Phi+108$	383	5
7	40 $\Phi+29$	94	4	64 $\Phi+45$	149	5	104 $\Phi+69$			168 $\Phi+109$			272 $\Phi+173$	613	1
8	65 $\Phi+47$	152	8	104 $\Phi+73$	241	7	以下省略	385	7	以下省略			以下省略	996	6
9	105 $\Phi+76$	246	3	168 $\Phi+118$	390	3		623	2		1000	1		1609	7
10	以下省略	398	2	以下省略	631	1		1008	0		1618	7		2605	4
11		644	5		1021	4		1631	2		2618	8		4215	2
12	↑	1042	7		1652	5		2639	2		4236	6		6820	6
13		1686	3		2673	0		4270	4		6854	5		11035	8
14	ルカ数列が観察される	2728	1		4325	5		6909	6		11090	2		17855	5
15		4414	4		6998	5		11179	1		17944	7		28890	4
16		7142	5		11323	1		18088	7		29034	0		46744	0
17		11556	0		18321	6		29267	8		46978	7		75634	4
18	$\Phi^5=5\Phi+3$	18698	5	$\Phi^6=8\Phi+5$	29644	7	$\Phi^7=13\Phi+8$	47355	6	$\Phi^8=21\Phi+13$	76012	7	$\Phi^9=34\Phi+21$	122378	4
			M系列			M系列		L系列		L系列		M系列			

【黄金比ふとまにアルゴリズム】で生じる「神聖方陣」

真善美と神聖数理学へ向けてⅢ

mod 9の世界へようこそ 2015.11.23 by Ken Chijimatsu

No. Φ数列 ≡L数列 L系列

1	Φ ¹	1.618	
2	Φ ²	2.618	
3	Φ ³	4.236	
4	Φ ⁴	6.854	
5	Φ ⁵	11.09	
6	Φ ⁶	18	0
7	Φ ⁷	29	2
8	Φ ⁸	47	2
9	Φ ⁹	76	4
10	Φ ¹⁰	123	6
11	Φ ¹¹	199	1
12	Φ ¹²	322	7
13	Φ ¹³	521	8
14	Φ ¹⁴	843	6
15	Φ ¹⁵	1,364	5
16	Φ ¹⁶	2,207	2
17	Φ ¹⁷	3,571	7
18	Φ ¹⁸	5,778	0
19	Φ ¹⁹	9,349	7
20	Φ ²⁰	15,127	7
21	Φ ²¹	24,476	5
22	Φ ²²	39,603	3
23	Φ ²³	64,079	8
24	Φ ²⁴	103,682	2
25	Φ ²⁵	167,761	1
26	Φ ²⁶	271,443	3
27	Φ ²⁷	439,204	4
28	Φ ²⁸	710,647	7
29	Φ ²⁹	1,149,851	2

0	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0
2	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0
2	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0
4	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0
6	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0
1	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0
7	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0
8	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0
6	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0
5	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0
2	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0
7	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0
7	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0
5	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0
3	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0
8	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0
2	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0
1	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0
3	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0
4	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0
7	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0
2	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

M
M
F F:フィボナッチ系列
K
L L:ルカ系列
M
L
K K:ケン系列
F
M M:ミチコ系列
M

F系列	4
L系列	4
K系列	4
M系列	10
0	2
<hr/>	
	24

* 厳密には
 $L_n = \Phi^n + (-\Phi)^{-n}$ 以下は
 大数では $\Phi^n \div L_n$ 循環する

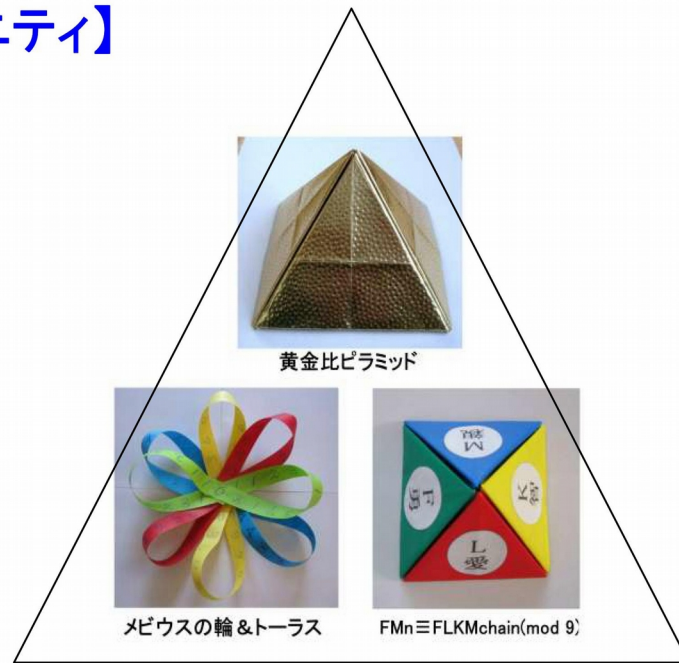
Φ(黄金比)を累乗化した数列はルカ数列に近似し、そのルカ数列をmod 9で一桁化するとL系列となる。
 L系列を0からのスタートにして、第一行、第一列に置き、それらを掛け合わせたものを行列の要素とし、
 更にmod 9処理すると、対称性に富む秩序ある方陣が出現する。それを「神聖方陣」と名づけた。
 縦横に24で循環する数列は、前の2項目を足した数になっていて、フトマニの性質を保持している。
 また、「陰」と「陽」の組合せでワンセットとなり、陰と陽を重ねると9=0となる。この二次平面を上下、
 左右に繋ぐと三次元のトーラス体となる。そこでも四つの数の流れ「FLKM系列」は循環する。



これは『宇宙にある全てのものは、まるで縦糸と横糸を綺麗に編んだ生地のようにである』と言った量子力学の父:ハイゼンベルグの言葉を想起させる。

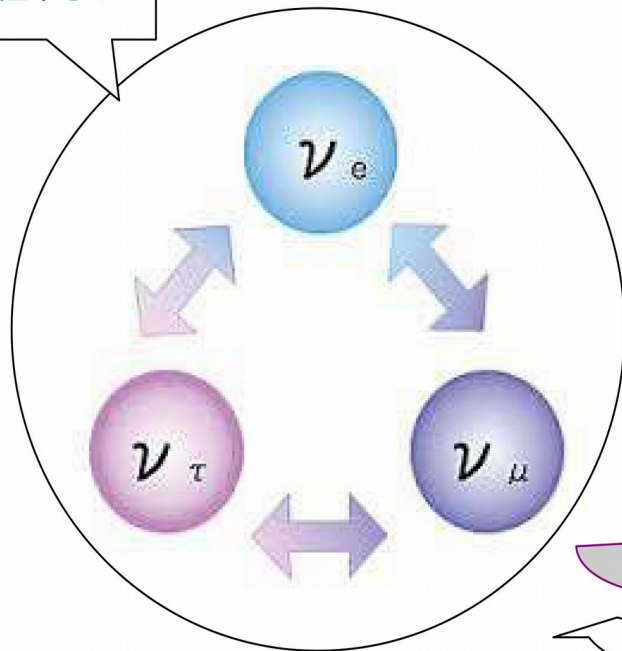
【ニュートリノ & トリニティ】

2015.10.10 千々松 健

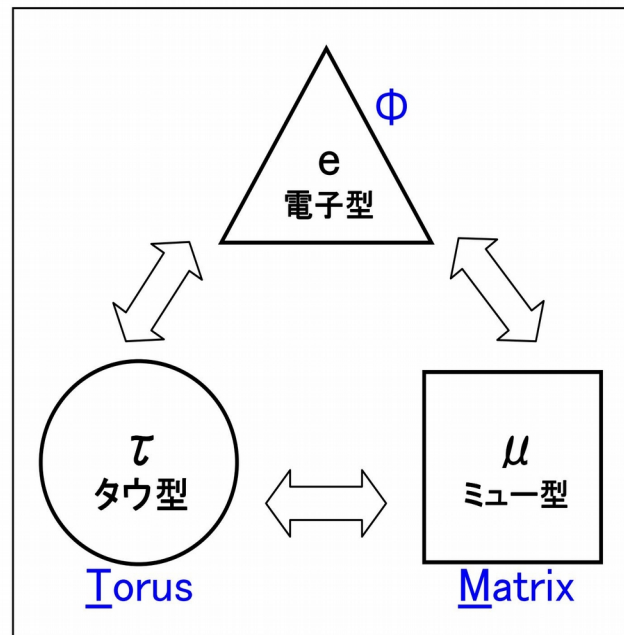


真善美と神聖数学

祝
ノーベル物理学賞
梶田隆章さん



ニュートリノ振動



Trinity (三型一体)